

校友会報

日本大学工学部校友会

平成25年3月1日

第76号

INDEX

- ごあいさつ2
- 平成24年度第55回通常総会報告3
- 第32回「母校を訪ねる会」を開催4
- 「母校を訪ねる会」三世代表彰6
- 「母校を訪ねる会」校友茶会7
- 平成24年度「母校を訪ねる会」「同級会」...8
- クラブOB・OG会報告11
- 支部活動報告16
- 校友レポート20
- がんばり記・工学部NEWS21
- 校友会NEWS・寄付者名簿22
- 通常総会・母校を訪ねる会の案内24



ごあいさつ

日本大学工学部長
出村 克宣



平成25年の早春を迎え、校友の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、工学部校友会並びに校友の皆様には、学生の就職支援など多くのご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、工学部の役目は、工学の基礎と応用に関わる不易流行を見極めながら、着実な教育・研究活動を推進することであり、その活動の中で様々な成果を生むことが地域貢献につながるものと考えております。平成24年度には、次のような活動・成果がありました。

4月：「ふるさと創生支援センター」の開設／ロハスの工学教育で日本機械学会教育賞を受賞（機械工学科橋本教授、他3名）。6月：国連持続可能な開発会議（リオ+20）「ジャパンデー」の外務省主催セミナーにおいて、機械工学科柿崎教授が基調講演し、「ロハスの工

学」に関わる取組みを紹介／総合教育戸次教授が日本物理学会の注目論文賞を受賞。9月：科学技術推進機構（JST）の「さきがけ」に生命応用化学科平野准教授の研究課題が採択。9月～平成25年1月：『福島県の復興を支える工学技術に関する公開シンポジウム～ロハスの工学を用いた日本大学工学部の取り組み』を課題別に5回開催。10月～12月：「マイスターズ・カレッジ2012」の開講。11月：建築学科浦部准教授と同研究室がその計画・設計・建設に参画した仮設住宅【木造仮設住宅群】がグッドデザイン金賞を受賞。

これらはHPトップニュースの一部であり、その詳細やここに紹介できなかった多くのニュースについて、是非、HPをご覧くださいと思います。なお、平成25年度には、これまでの医療工学に関わる教育・研究を基礎として、機械工学科及び電気電子工学科の学生を対象とする臨床工学技士課程が設置されます。これからの高度医療に貢献する人材の育成に寄与するものと期待しているところです。

今後とも、工学部の教育・研究活動にご支援を賜りますようお願い申し上げますと共に、校友諸氏のご健勝とご活躍並びに、工学部校友会のますますの発展を祈念いたします。

ごあいさつ

校友会会長
手塚 公敏



平成25年の早春を迎え、校友の皆様には益々ご壮健のこととお慶び申し上げます。また平素は、母校はもとより校友会に対しまして、限りないご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、歴史的、東日本大震災が発生し、早2年が過ぎようとしております。しかしながら、震災時、副次的に引き起こされた原子力発電所の事故で噴出した大量の放射性物質の除染は、忘れ去られたかのように遅々として進まず、復旧・復興は先の見えない状況です。福島県に在籍する工学部校友会としては、新たに誕生した政権にこの実状の解決こそ第一義と捉えてもらい、早急な対策の実行をお願いしたいものです。そして、在学生には、放射線の憂いのないキャンパスで悠々とした学生生活を過ごしてもらいたいと思います。

恒例の学部祭（北桜祭）は、昨年10月13、14日の2日に亘り盛大に開催されました。特に14日のメインイベントである「母校を訪ねる会」には、一昨年を上回る250名ほどの校友が来校されました。震災による学部の建物被害や放射線量を心配して来られた皆さんは、被害を乗り越えて歩み続ける工学部の現状を確認し、安心

して帰っていきました。

「校友会名簿」の前回発行から15年ほど経過いたしました。校友会活動や校友間の会合・親睦会等への必要性から、そろそろ発行の時期かと思われますので、本年度はその準備を始めようと考えております。

「日本大学校友会（本部校友会）正会員」登録のお願いの文書を「校友会報」に同封致しましたところ、多くの方々のご賛同をいただき、登録者数で他学部と比較して決して劣らない成果を挙げることができました。工学部校友会と致しましては、愛校心のある校友が多くいる思いで、誠に誇らしい限りであります。

本当にありがとうございました。さらに、本年度におきましても引き続きご登録いただけますよう、改めてここにお願ひ申し上げます。

工学部校友会として喜ばしい報告があります。昭和43年土木工学科卒の空手部OB会長の川名寛章（旧姓：井上）君が、昨年7月、千葉県議会の第66代議長に就任致しました。また、22年度会報でご報告申し上げました昭和50年土木工学科卒の佐藤勉君が12月の衆議院選挙（栃木4区）で6度目の当選を果たすことができ、国会対策委員長代理に就任致しました。校友として誇らしく工学部の名を高らしめることであり、これも偏に校友同志の絆の強さによるものと考えております。お二人には、お祝いを申し上げますと共に、今後の益々の精進を期待いたします。

末筆ながら皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げます、ご挨拶と致します。

平成24年度第55回通常総会報告

平成24年4月21日(土)、平成24年度第55回通常総会が工学部62号館にて開催されました。昨年度のような震災後の混乱もなく、通常通り開催することが出来ました。また、今回は、前回震災の影響で参加出来なかった準会員(学生)も参加しました。

議事は承認事項、議案事項ともに賛成多数で可決されました。議事終了後に校友会活動功労者への表彰と支部長による支部活動報告が行われ、閉会となりました。

総会后、来賓をお迎えして懇親会を開催しました。

総会には年代を問わず様々な校友が参加しております。仕事面などにおいても新たな人脈を作る機会になるかもしれません。校友の皆様、奮ってご参加下さい。

○校友会功労者の表彰

本会の会務遂行ならびに発展に貢献した功労者6名に表彰状、記念品を贈呈しました。

表彰者(敬称略・表彰順)

所 属	氏 名	学科・回	表彰理由
北海道支部	成田 一穂	土15	北海道支部事務局長歴任
関東支部	星野濱三郎	土14	栃木県校友会会長歴任
北陸支部	笠井 隆建	土17	北陸支部長歴任
東東海支部	安本 勝至	機14	支部の設立、運営に尽力
東海支部	浅田 良孝	土16	東海支部事務局次長・会計監査歴任
アカシア教育研究会	油 浅 耕三	建14	副支部長歴任



平成23年度一般会計収支決算報告書

収入の部

単位:円

科 目	予算額 A	決算額 B	対予算比(B-A)	付 記
運 付 金 収 入				
本部校友会運付金収入	34,500,000	28,647,500	△ 5,852,500	震災支援費として本部へ55万円の拠出
本部校友会正会員交付金	100,000	204,000	104,000	
雑 収 入				
預 金 利 息 収 入	15,000	9,132	△ 5,868	
積 立 金 取 崩 収 入	0	0	0	
本部校友会より借り入れ	0	5,000,000	5,000,000	24~26年度借り入れ金返済
当 年 度 収 入 合 計	34,615,000	33,860,632	△ 754,368	
前年度繰り越支払資金	0	0	0	
前 年 度 繰 越 金	1,020,626	1,020,626	0	
収 入 の 部 合 計	35,635,626	34,881,258	△ 754,368	

支出の部

単位:円

科 目	予算額 A	決算額 B	対予算比(B-A)	付 記
学部への補助費				
卒業式記念品	1,500,000	1,000,000	△ 500,000	
卒業記念パーティ補助金	300,000	300,000	0	
学 生 へ の 補 助 費				
学生支援基金特別会計繰入支出金 (学内表彰、学生生活、課外活動支援)	1,020,000	1,020,000	0	
行事関係補助費				
北 桜 祭 協 賛 金	400,000	369,600	△ 30,400	
入 学 式 記 念 品	1,200,000	660,000	△ 540,000	
本部校友会が「振興特別委員会寄付	300,000	0	△ 300,000	
全日本大学女子駅伝応援協賛	100,000	0	△ 100,000	本校不出場
事業関係支出金				
広報活動費(会報発行費)	4,600,000	4,359,904	△ 240,096	会報発送関係未払金含む
広報活動費(ホームページ運営費)	700,000	600,000	△ 100,000	
校 友 情 報 管 理 費	1,300,000	1,172,745	△ 127,255	
母校を訪ねる会	1,100,000	1,031,215	△ 68,785	
就 職 支 援 運 営 費	1,250,000	1,076,630	△ 173,370	
校友支援特別会計繰入支出金	300,000	300,000	0	
冠講座開講特別会計繰入支出金	50,000	50,000	0	
校友会歴史資料収集編集特別会計繰入支出金	200,000	200,000	0	
工学部校友会50周年記念誌発刊特別会計繰入支出金	0	0	0	
工学部教職員連絡協議会	400,000	599,650	199,650	
功 労 者 表 彰	180,000	103,950	△ 76,050	
運 営 費				
支 部 活 動 支 援 費	2,200,000	2,200,000	0	
負 担 分 担 費	200,000	200,000	0	
会 費	470,000	534,000	64,000	
総 会 会 議 費	500,000	483,994	△ 16,006	
工科系校友会支部長会議(当番校)	300,000	69,000	△ 231,000	
諸 会 議 費	190,000	123,900	△ 66,100	
旅 費 交 通 費	3,900,000	4,244,980	344,980	
維 持 管 理 費	70,000	0	△ 70,000	
慶 弔 費	1,100,000	1,101,500	1,500	
交 際 費	250,000	246,800	△ 3,200	
通 信 連 絡 費	580,000	575,742	△ 4,258	
図 書 印 刷 製 本 費	450,000	391,700	△ 58,300	
備 品 費	120,000	44,798	△ 75,202	
事務用品費・消耗品費	400,000	461,616	61,616	
賃 借 料	187,740	187,740	0	コピー機リース
手 数 料	20,000	14,225	△ 5,775	
支 払 い 手 数 料	40,000	39,620	△ 380	
福 利 厚 生 費	50,000	51,200	1,200	
給 与 手 当	6,800,000	6,655,391	△ 144,609	
法 定 福 利 費	950,000	948,983	△ 1,017	
雑 費	50,000	26,137	△ 23,863	
職員退職給与積立特別会計繰入支出	100,000	100,000	0	
奨学等基金への繰入支出				
就学支援特別会計繰入支出	1,000,000	1,000,000	0	
予 備 費	807,886	0	△ 807,886	
当 年 度 支 出 合 計	35,635,626	32,545,020	△ 3,090,606	
次年度繰越支払資金	0	0	0	
次 年 度 繰 越 金	0	2,336,238	2,336,238	
支 出 の 部 合 計	35,635,626	34,881,258	△ 754,368	

「母校を訪ねる会」第32回を開催

平成24年10月14日(土)、第32回目の母校を訪ねる会が開催されました。今回は出席の申込みが例年より多く寄せられ、最終的な出席者数は251名となりました。これは過去10年で2番目に多い出席者数になります。当日は晴天にも恵まれ、絶好の式典日和でした。

懇親会では出席者が多いためか例年以上の盛り上がりを見せました。何十年ぶりに母校を訪ねた皆様は、旧友や恩師との再会や母校の変わりぶりに興奮冷めやらぬ様子でした。今回は懇親会席上にて工学部を三世代に渡



第32回 母校を訪ねる会(第10回・昭和37年卒) 平成24年10月14日



第32回 母校を訪ねる会(第20回・昭和47年卒) 平成24年10月14日

り卒業された校友の表彰式があり、栄えある第1回目の表彰者として古川様親子が表彰されました。また、例年「母校を訪ねる会」受付付近で開催している「校友茶会」に、今回から「茶道同好会」の学生が協力してくれることになり、懇親会の席上をお借りして、同好会会長の石井脩平君に挨拶してもらいました。

應援団の協力による校歌斉唱、万歳三唱を経て閉会となりました。例年のことながら、参加された皆様が満足げにお帰りになる姿を見ると、無事に開催出来て良かったと思います。次回もたくさんの皆様のご参加をお待ち申し上げます。



第32回 母校を訪ねる会(第30回・昭和57年卒) 平成24年10月14日



第32回 母校を訪ねる会(第40回・平成4年卒、第50回・平成14年卒) 平成24年10月14日

「母校を訪ねる会」三世代表彰

「母校を訪ねる会」懇親会にて工学部を三世代(祖父母・父母・孫)に渡り卒業された校友をお招きし、表彰式を行いました。

今回選ばれたのは古川様ご家族。古川武二様(故人：専門部土1回卒)、武嗣様(土29回卒)、古川武堯様(土59回卒)の3名です。当日は武嗣様と武堯様にお越し頂き、校友会から表彰状と記念品、工学部から写真パネルを贈呈しました。



ごあいさつ

古川武嗣

三世代表彰式へお招き頂き誠にありがとうございました。盛大にお祝い頂き、誠に光栄であります。

息子は祖父を知らずに生まれましたが、皆様と校歌を合唱した時に、親子三代で同じ校歌を歌えるという事に改めて感慨深い思いをしました。

父は、工学部の前身である日本大学専門部工科、土木科の第1期生です。当時は飛行場の跡地を利用した施設で、何もなかったと聞いております。卒業後郡山市役所に勤め、57歳で亡くなるまで技術畑一筋に勤務

しておりました。

息子の武堯は第59回土木科を卒業し、さいたま市の中学校で理科の教師をしております。東日本大震災で卒業式や卒業旅行等の計画が全て中止になり残念でしたが、平成24年の5月に土木学会東北支部より、卒論を基にした研究発表に対して研究奨励賞を授与されました。これも御指導頂いた先生方のお陰であると、厚く御礼申し上げます。

私は、第29回土木科を卒業し、郡山市で測量設計会社を営んでおりますが、工学部出身のたくさんの先輩方や後輩の方々から公私にわたり多大なお世話になっており、本当にありがたい事であると思っております。

最後に、今回の表彰に携わって頂いた多くの皆様に感謝申し上げます。

母校を訪ねる会

平成24年10月14日



「母校を訪ねる会」校友茶会

母校を訪ねる会において校友茶会を開催しました。今回から茶道同好会の学生の協力を得て、茶会を運営することになりました。学生にとっては初めての体験でしたが、慣れないながらも、一生懸命接客に励んでおりました。



校友茶会に参加して

茶道同好会長 渡邊 瑞佐(生命応用2年)

平成24年度の文化祭での校友茶会に参加させて頂き、茶道同好会として、とてもいい経験をさせて頂きました。一昨年部活を発足し、1年間しか茶道というものに触れていない状態でのお茶会で、部員全員右も左も分からず、先生方の手助けがなければお茶会の成功はありませんでした。茶道同好会の指導をして頂いている先生方だけでなく、先生のお弟子さんや、お知り合いの先生方にもお茶会を手伝って頂き、とても近くで綺麗な作法を見ることができました。お茶会に来て下さったお客様にも「今年は学生さんも参加しているんですね」と笑顔で声をかけて頂き、次回はいっとうまくなっていようと思いました。

次回の校友茶会では今回よりもお茶を飲みに来て下さるお客様に喜んで頂けるよう練習に励みたいと思います。



平成24年「母校を訪ねる会」「同級会」に参加して

母校を訪ねる会に出席して

土木10回卒 上田 享三郎



平成24年10月13日「土木10回卒の十桜会」と翌日10月14日の「母校を訪ねる会」に参加しました。「十桜会」では、まず学生時代4年間を過ごした郡山市街の様変わりといつまでも変わらない安達太良山系をビューホテルより眺め、感動しました。

ヨオー元気か！！10年ぶり～50年ぶりの同級生や同じホテルでの後輩参加者で20年～30年ぶりの方々からお元気ですか！！と声をかけられ手を握り合い懐かしく現役時代を思い起こしました。「母校を訪ねる会」ではアカシア林の正門から駐車場に、早速校庭を廻り、学生寮は・・・一号館は・・・体育館は！！・・・を散策し、あまりのキャンパスの変わりようにびっくりした次第です。又、思いもよらず土木5回卒で昔お世話になった方とお会いしました。その方のお兄さんは、私の新入社員のごころ上司だったのです。



我々10回卒は正に日本が高度経済成長期の最中にあり小生も水力、火力、原子力発電所、変電所、地中海トンネル工事等々、多忙の毎日でした。大型電算機が入る頃には、IBMに通りホートラン、PL1、アセンブラー等プログラム言語を習い、市販のソフトが出るまで自分でプログラムを作成設計し、現場に行き仕上げるという大変な時代、いや恵まれた時代でした。35年間の勤務60歳で定年と思っておりましたが、政府からベトナムの水力発電所建設が入り、4年延期となりましたが、アッという間の41年間、64歳で退任しました。現役時代国内でも同窓生だと知ると親しくなり、助け合ってきた昔を思い起こします。世界の人口が倍以上に増えたこの半世紀、世界の動きを見ながら、日本の財政危機、デフレからの脱却、火山地震大国、政治の安定しない中ですが、経済大国再生に向け、豊かで安心安全な国づくりのため工科系の学生には世に出たら頑張ってもらわ

なければならないことが沢山あります。学生時代、現役時代を思い起こし73歳の我々も気持ちの面で若返り嬉しく楽しい集いでした。工学部の先生方、校友会会長さん等のお計らいによる10回卒、20回卒、30回卒、40回卒、50回卒一同に会する「母校を訪ねる会」の継続をお願い申し上げます。

“我思い出の町アカシヤの大連”・・・近年の日中関係を憂う

建築10回卒 松田 浩成



清岡貞行が著した“アカシヤの大連”紐解くまでもなく戦前の大連はアカシヤの花が咲き乱れ、都市計画は日本人が“理想郷”として整備され、活気に溢れた都市でありました。私は瀋陽(旧奉天)で生まれ終戦を大連で迎えました。

終戦を境に日本から中国に主権は移動し、日本人の苦難の道が始まりました。侵攻してきたソ連軍が酒に酔って日本人を襲い、金品を強奪する姿を何度ともなく見るにつけ子供心に戦争の悲惨な面を実感いたしました。

1947年2月に引揚船に乗り舞鶴港へ。“国敗れて山河あり”の言葉通りの情景が私達を暖かく迎えてくれました。時が流れ、縁あって昭和33年に日大第二工学部建築学科入学。学び舎は木造でお粗末でありましたが、春になると満開の桜、そして5月にはアカシヤの花、阿武隈の清流が私達の心を癒してくれました。当時は学生の大半が郡山市及び周辺の下宿にお世話になっており、市民との交流も懐かしい思い出となって残っております。古希を過ぎ、企業戦士の役割を終えて昨年10月に校友会の“母校を訪ねる会”の呼びかけに応じて久方ぶりの母校訪問。アカシヤの樹は確認できませんでしたが、桜の樹は健在でした。同級生との嬉しい50年ぶりの再会もありました。本当に楽しい一時を過ごさせていただきました。後何年、健在でおられるか神のみぞ知



るという所ですが、最近気になっている事は尖閣諸島を巡る日中間の対立、中国で生まれ育った者としての心の痛む事です。私は仕事上、あるいは音楽の交流を通して多くの中国人の友人がおります。彼等の言葉としては「騒動を起こしているのは、ごく一部の人間がしている事で余り心配しないで下さい」と言っておりますが、戦前、戦時中に日本軍部が犯した罪は事実の部分もあり、その部分は日本国民として率直に詫びなければならない所ですが、未来、後世に向かって良好な両国間の関係を築いていく為には市民レベルでの文化交流は欠かせない要因になっていくと思われます。その交流が続く限りは両国の関係はそう簡単には崩れないと私は信じており、そして僅かなりとも、両国の懸け橋になり得ればと願う今日この頃であります。

「同級会」40年振りの再会

建築20回卒 鎌田 保善



秋の最中、母校を訪ねる会で10年毎に学舎を訪れます。私はもちろんこのイベントを大切にしていますが、その前日の「同級会」を心待ちにしています。10年おきの母校を訪ねる会に合わせ、「同級会」も同様に開催してきました。自ら幹事として係わりたいと願っているのです。連絡をとり、会場を準備するのは、地元に残る同級生の使命、務めだと思っています。同級生同志がお互いに旧日の思いで談笑するのを見るのは私の喜びです。多感な時期を共に過ごし、楽しい思いと苦い思いを味わい成長しました。遠くにいても今も友に啓発される自分がいます。私は周りの人に役立っているかというクエスチョンです。



その同級生が一同に会したのです。期日は10月13日(土)、午後6時30分開始、場所はビューホテルアネックスでした。開始30分前頃から同級生は訪れ、「おお、誰々」とお互いに確認し合ったり、「君、誰だっけ」とハッキリ氏名を尋ねる者も多くいました。全員が揃った後、開会を前に集合写真を撮りました。ここに掲載して

あるのがその時のものです。全員が40年前の青年でした。撮影の後、宴会場に戻り全員で、物故者に黙祷を行いました。

その後和やかに幕開けとなり、来賓には学部長と校友会会長に自らお出で頂きました。学部長には当年度の卒業生は、現在の産業界のニーズに对应しているということ、また校友会会長には、各地にいる卒業生の団結力が強いという内容のお話を伺いました。卒業生として大いに心強く思いました。

乾杯の後、宴会が始まると、すぐ40年前にタイムスリップし、学生同志に戻り話に夢中になっていました。事前に予定した「現在の状況」を各自話してもらうことになっていましたが、会が盛り上がっているので中止する程でした。あっという間に2時間が過ぎ、中締めの時を迎えました。中締めを前に、用意したCDをかけ、校歌を皆で歌い、学生気分を体感したのです。

散会の後、残された私達幹事が共通に思ったのは心地よい疲労感と満足感です。二度の幹事会と3ヶ月掛けた成果は、つかの間の2時間でしたが、記憶に残る友と過ごした時間でした。

平成24年度「母校を訪ねる会」に参加して

機械20回卒 増澤 節雄



工学部を卒業して40年を経て久しぶりに訪ねた母校の変化に参加した機械20回卒のメンバーは驚いていた。入学した昭和43年からの学生時代、学生紛争の始まりと終結を知る我々にとって管理棟の変化や新しいビルに時代の変遷を痛感した。広いキャンパスに点在する各建物や周辺道路がきれいに整備され、さぞかし現役学生には快適な環境でうらやましい限りだ。古い3階建の教室ビルを見て、ここで授業を受けたとか、図書館は当時最先デザインであったなど昔を懐かしむのは年齢を重ねたせいだろうか。

古田先生銅像前での記念撮影時には20回卒の人数が多くカメラマンの苦勞に、立っている我々が団塊世



代であることを再認識させられた。

懇親会で懐かしい先生方にお会いしたり、また40年ぶりに聞いた校歌や応援歌では懐かしいと思いながら結構歌詞やメロディを記憶していることに驚いた。前夜に何人かの仲間で同窓会を開催した。団塊世代の我々はまだ60歳を過ぎても何らかの仕事に携わり、まだまだ現役と息巻くものの、互いにこんな病気をしていたことなどを聞き病気自慢をしているようでも、何よりも元気な互いの顔で再会出来たことを喜んだ。

卒業後郡山を離れている仲間と工学部を訪ねる前に学生時代に下宿していた付近等の市内や学校周辺を車で回りながら、すっかり変化した眺めに、昨年原発事故による放射能の影響があることにやりきれない思いをした。しかし各地で除染が進み、かつ工学部でも除染への貢献・研究が進んでいることを聞き、大いに期待したいものである。

管理棟裏にあった線量計やロハスの家を見て工学部としての取り組みに感動した。

最後に校友会事務局の手配でおいしい食事が戴けたことに感謝して筆を置くことにする。

平成24年度「母校を訪ねる会」開催に感謝して

電気20回卒 中山 健一

2012年10月14日第32回「母校を訪ねる会」が、世界的に有名になった福島の地！郡山で開催された。東日本大震災から1年半、地震・津波・原発事故の放射能放出、千年に一度とも言われる大災害後に、この催しが開催された事に安堵の気持ちで一杯です。

学部入学生への「産業入門セミナー」非常勤講師として、4年間訪問している。放射能汚染が話題となり受験生が大幅に減った福島で、特徴有る大学要因を伝えることができた本望だと思う。今春には、初期セミナー卒業生が巣立つが、私の思いを感じる4年間の環境で過ごせたか大変疑問に思う。「右脳・左脳、エンジニアとして育む宝物とは！」。答えは、「友達をつくること」。友達を作るに最良の環境が大学生活時代である事を。卒業後40年が経過した。今回卒業以来の友との出会いもあり髪は減り、しわは増え齢を取ったな！と、出会った瞬間に思う。でもつかの間、あの素晴らしい学生時代にタイムスリップ！

校友会事務局のお蔭で、「母校を訪ねる会」と共に、宿泊案内状の送付を願った。広島や北海道から18名が温泉宿に集った。懇親前に全員が近況報告会をし、皆熱心に語り聴き、飲食開始時間を大幅に過ぎた。気さくな仲間さんが乾杯酒をと！満ち溢れた報告を終え充実の宴

と成った。級友が学内に教育者として在籍しているの
で絆が深いかもしれないが、根本は当時の下宿生活のお蔭だと思う。



翌日学内で歓迎を受け、研究室を興味深く見学、皆で集合写真に遅れるくらい昔と違った研究室を探索した。学部長の御挨拶や、よみがえった日大節、昔との違いに感慨無量！様々な企画に感謝し、皆別れがたく再会を誓い帰宅の途に着いた。わざわざ遠くからお土産持参し下宿を訪ねた友人もいたが、そこには下宿はなくどうしたことやら！歴史の流れを感じ立ち去った。現在殆どがアパート生活。郡山での最高の楽しみを味わえなくなったようだ。残念だが、又さらなる価値あるものを見出し創造出来る工学部の学生であって欲しい。「母校を訪ねる会」開催戴いた事に心より感謝し、又皆が元気で会える北桜祭開催の継続と学部の発展を期待します。

母校を訪ねる会に参加して

電気30回卒 加藤 昌宏

去る10月14日に「第32回母校を訪ねる会」があり、参加させていただきました。また、これに先立ち10月13日には全科合同の同窓会が磐梯熱海温泉華の湯で開催されました。10年前の同窓会に比べ各科の参加者が少なかったこともあり、幹事の方々のご発案による合同開催でした。幹事の皆様、ありがとうございました。



一昨年の東日本大震災以降、私自身は生き方や人生そのものを考えることが度々ありました。また、東京電

力福島第一原発の爆発事故の後も地元福島で生きる不安を抱えながら生活しています。

そのような中、我が母校・工学部の学生達の震災直後のボランティア活動や除染の技術を開発している報道をみて、大変頼もしく又誇らしく思っていました。

そのような中、今回の同窓会に参加してみると、同世代の仲間が日本国内のみならず海外でも活躍しているのを知り、あらためて私も頑張る勇気をいただきました。

母校を訪ねる会では、皆さんと校歌を歌い在学時代の思い出にひたるひと時を過ごす事ができました。また校史資料室に伺って工学部の歴史に触れる機会を得ました。そして、あらためて工学部の卒業生であることの誇りを胸にすることが出来ました。

また、今回新たに親子三代にわたって工学部を卒業した家族を表彰する制度ができたことにも感動いたしました。ただ望むなら学部を問わない形での日本大学

卒業親子三代も表彰して欲しいものです。

次の母校を訪ねる会の時には、是非また一人でも多くの同窓の方とお会いしたいものです。皆様も健康に留意されて元気にお過ごしください。

最後に、母校を訪ねる会、また同窓会の開催・運営にご尽力いただいた皆様にあらためて感謝申し上げますとともに、母校の益々のご発展をご祈念いたします。



クラブOB・OG会報告



喜寿の祝いと母校を訪ねる会

土木6回卒 横溝 秀雄

昭和33年卒業の我々同期生は、今年で満年齢77歳を過ぎました。不幸にして鬼籍に入られた方もありますが、多くの同期生各位は現在も健在で全国各地で余生を楽しんでおられます。土木6回生で組織する「アカシヤ工友会」では、この度会員が揃って喜寿を迎えたことを共に喜び合うべく、「アカシヤ工友会 喜寿を祝う会」を開催しました。場所は第1回開催地の磐梯熱海温泉「四季彩一力」として、遠く福岡、岐阜、静岡、秋田などから会員20名、夫人同伴5名の参加となりました。



会合では、遠来の友との出会いであり、ゆっくりと話しかけ合う場がほしいとの声にこたえて、入浴後2時間ほどの自由に懇談する場を設けて「来し方を省みる」「趣味に生きる」等から一昨年の東日本大震災の体験談などで話が弾みました。懇親会では、郡山芸妓衆による喜寿の

祝舞(佐藤吉新幹事の提供)に始まり、元気一杯の友との再会は飲むことよりも、語り合うことや、配られた「教科担当教授一覧表」を見ながら遠い日の思い出に浸りつつ、校歌を合唱するなど十分に楽しんだ一夜でした。翌日は希望者が揃って開成山大神宮で喜寿祭の御祓いを受けた後、母校を訪ねる会に参加となりました。学園では若さあふれる学生諸氏の屋台を楽しみ、各学科の紹介展示では、時代のニーズに合わせた内容に変わっていることを実感すると共に、産学官連携の成果があがっている様子が伺えて大変嬉しく思いました。懇親会での出村工学部長挨拶は、参加校友の心情をしっかりと受けとめた内容であり、今までにない素晴らしさであると同感服しておりました。卒業後50年以上の卒で参加させて頂き誠にありがとう御座いました。土木6回生の喜寿を祝う会が大変意義深いものとなりました。工学部並びに校友会関係者の皆様の御配慮に感謝申し上げます。



第12回三九会を開催

機械12回卒 橋本 壽

第12回三九会(昭和39年3月卒業)を、菅野先生(柳沼先生は所用で欠席)をお迎えして、平成24年4月15～16日に、飯坂温泉摺上亭大鳥で開催しました。開催日は、7人の幹事と、菅野・柳沼両先生とも相談し、東日本大震災が起きる前に決定し、震災でいろいろな意見もありましたが「震災があったからこそ私たちが青春時代を

過ごした故郷で」の想いから実施しました。

当日は、北は岩手、南は大分から26人が集い、時期的に桜花爛漫を期待したのですが蕾の状態でした。菅野先生を囲んでの話は尽きることなく、以前にも増して大いに盛り上がりました。先生が体調を崩されたとのことでしたが、元気に参加され大変嬉しく感激でした。

二次会は、部屋に飲物とつまみ類を持ち込み、宴会の続き話から最近の世情を憂い、政界まで議論百出、深夜まで在学時代の思い出や健康状態に花が咲きました。ゆっくり温泉に浸って気分の癒しもできました。



翌日は朝食後再会を約束し散会、ゴルフ組(パーシモンCC)と学校訪問組に分かれ、訪問は坂野先生(機械12回卒の同期)の説明に感動しながら母校の発展に胸を熱くしました。

この三九会は2~3年に一度、現地集合・現地解散を基本に会員の気楽な親睦一筋で開催しています。その他に関東地区在住者は原則毎年実施しており、今年は1月23日(水)浅草で15人の出席を頂き、実施しました。現在まで会員15名の他界者を偲ぶ時、元気で過ごせることの有難さを痛感、私たちの年代になると、仲間は減ることはあっても、増えることは難しいと思います。「昔を偲び今を語ったり、お付き合いを大切にしたい」この会が会員のお役にてば幸いです。

次回の三九会は、来年3月に小山事務局長より概略の案内をしますが、26年10月の日曜日第34回の「母校を訪ねる会」に合わせて開催します。多くの参加をお願いします。(因みに前回平成16年に開催した折、私たちが最も多い出席でした。)



管弦楽部創立50周年記念行事を挙行 機械13回卒 杉坂 宏欣

一昨年、わが工学部管弦楽部は誕生50年を迎えた。記念行事を計画していたが、大震災に遭遇し止むなく延期。爾後1年有余、現役部員及び郡山近在のOB諸氏の尽力により、今年の北桜祭期間中によりやくその開催が

叶った。

まず記念式典は10月13日18:30より「ホテルプリシード郡山」に於いて50名を超す列席者と共に催された。祝辞をはじめとして多数の出席者から、活動が50年もの間永々と継続してきたことに対する深い感慨の言葉が述べられた。特に古参のOBOGにとっては、良くぞ創部期の熱き思いを半世紀もつないでくれたと言う感激と感謝の念で一杯だったようである。祝賀会ではOB有志による飛び入りの弦楽合奏もあり、参加者全員が余韻を惜しみながら閉会となった。

翌14日、北桜祭の秋季演奏会に引き続き、14:15より「50周年記念演奏会」が行われた。野口徹雄氏指揮の「50周年記念アンサンブル」(現役学生とOB等20数名)によりコレッリの「クリスマスコンチェルト」、ブリテンの「シンプルシンフォニー」他が演奏された。にわか仕立ての編成と短期間の音合わせを思わせない素晴らしい演奏に、聴衆も惜しめない拍手を贈ってくれた。指揮者の巧みなタクトさばき、それに呼応して熱演する楽員。同志たる自分も、共にステージ上にいるような感動を味わうことができた。



記念行事を無事に終えて間もなく、比較的若いOBの回想を伝え聞いて思わず胸が熱くなった。部員が激減した一時期、自分一人だけ部室で練習していたことが何度もあったと言う…。熱き思いで創部した日から続く遙かな道のり、それを支えてきたのは個々人の情熱と仲間の絆ではなかっただろうか。一つの節目を過ぎ新たな心で、今後益々の永続と発展を願って止まない。



日本大学工学部 合気道部六代同期会 電気16回卒 松永 優(第六代主将)

日本大学工学部16期生 合気道部第六代部員が、日本の中央部、伊豆の国市伊豆長岡ホテルサンバレー本館に、北は北海道から南は九州の大分、四国の香川から参加し2012/11/6から一泊して歓談したので報告します。まずは2年後にまた会おうと約束して解散したの

で参加できなかった人にぜひ2年後に出て来て欲しいのと「参加者は元気に生きているぞ!!」ということとを同期生や先輩や後輩に知らせたくて投稿しました。写真1は夫婦で参加された二組が帰られた後ですがホテル前で六十半ばの集合写真です。中には卒業後44年ぶりに初めて再会した仲間がいて最初は思い出すのに苦労しました。しかし、一旦思い出すと40年は数日前のごとく、とりとめなく一晩がすぎました。そして参加者の中には郡山市内の武徳殿で稽古していた時、郡山駅から開成山に行く道と国道四号線と交差する道路の角に有ったお店のお嬢さんが参加してくれました。三姉妹の一人、武徳殿での稽古後、甘いもの補給にたむろしたものです。そして地元静岡の同期生二名の参加、ありがとうございました。

昨年の学部祭で合気道部51代幹部認証式が行われたとのこと。我々6代は、1年の時は木造の兵舎で、草原で稽古したことから始まり道場を転々としたのに、写真2のように部員は百人もいたことが自慢で語り合いました。土木が多かったものの建築、電気、機械、化学と!!

写真3は、6代の卒業時の集合写真。みんな20代の紅顔の美青年だったのですね。みんな66才だと思っていたら今回初めて知ったのは70才の人も。みんな一線から引退して悠々自適の方ばかり、下宿先を巡るなど、母校



写真1



写真2



写真3



写真4

を訪ねる会が待ち遠しいですね。

合気会も植芝盛平開祖から植芝吉祥丸二代目道主、植芝守央三代目道主と益々繁榮していますが、その当時に勉強した合気道精神は、この年まで残っていますね。

写真4が茨城の合気神社で合宿し合気道開祖に稽古をつけていただいた時、空に浮いて受身が取れなくて気絶したのを今のように思い出します。

最後に幹事さんご苦労様でした。同期生で校友会会長をしている手塚氏、四国支部長の六車氏の益々のご活躍を、そして、天国に召された有川師範、押田氏、宮川氏のご冥福をお祈りいたします。 拝



青春に旅する会

土木19回卒 松久 房夫

第2回、第19期卒業者を中心にした同窓会、別名「青春に旅する会」が平成24年5月25日、ライラックの花が満開の北の都、札幌市で行われました。

学生当時「俊英学寮」で生活を共にした仲間、その後同じ下宿で生活した時の仲間など、第1回目が金沢市で開かれ、第2回目を札幌市で行いました。この会にはまだ入会していませんが、学校に残っている同期生は、長林教授(土木・博士)です。会員は現在63歳前後の現役を引退したばかりの仲間で約20名います。話題は福島原発の放射能の話。大学も風評被害があり、大変心配しております。ぜひ、この難局を乗り越え、東北の大学の一つとして、高度な研究・優秀な人材の育成に努めてほしいと願うものです。

話は変わりますが、同窓会での話題は40年ほど前の寮生活の厳しさ、自由だが貧乏下宿での生活、東京国立競技場での全学部対抗運動会、学園紛争などの思い出話や、60代になると深刻な生活習慣病の話など、普段気さくに話せない話も、学生時代の仲間とはこだわりなく話し合い、約5時間にわたっての宴会となり、楽しいひと時となりました。5時間の間にも、話しつくせない話もあり、卒業後長い時間が過ぎたと感じました。多くの方は家族をつれ、また一人で来た方は家族や子供、孫たちへの沢山の土産物を買って札幌を後にしました。次は、安芸の国・広島市での開催となる予定で、先輩を含め楽しみにしています。

写真前列左から、木本君のお嬢様、橋本先輩、佐藤先輩、藤林先輩、後列左から松久、大野(優)、木本、物部、宮崎、伊藤、大野(敏)、今井の各氏です。皆社会に貢献した自信と誇りがみなぎった顔です。中には私も含め、今も働いている人が多いのに驚きました。趣味の「囲碁」に打ち込んでいる人、高級車を乗り回し、世界



各地を旅している人、マンション経営で一儲けを企画している人、いずれも第二の人生を楽しんでいます。五木寛之の「下山の思想」ではありませんが、山頂を極め、大きな海原や豊かな緑や、草花を見ながら、ゆったりとして下山を楽しんでいる時です。



「第17回 あかしや建友会」開催報告

建築19回卒 柳 啓

平成24年度「北桜祭」初日の10月13日(土)日本大学工学部70号館(新教室棟)4F7044教室にて、工学部長出村克宣先生をお迎えし、恩師小栗治男先生、渡澤正典先生のご臨席のもと第17回「あかしや建友会」が開催されました。

参加者は、会員(協賛会員を含む)をはじめOB、一般の方、若干名の在学生在が加わり総員21名でした。

今回は、最近の地球温暖化の影響で夏場の気温が40℃近くにまで上昇する地域が我が国に出現し、国内で夏場に施工するコンクリートの品質が従前に増して懸念されることから「暑中コンクリートに関する話題」と題して立山創一氏(建築29回卒、安藤建設(株)技術研究所)



に、また、近年の資源有効活用の観点から伝統的建築材料の見直しが各方面で進められていることから「土壁の壁土に関する話題」と題して浦 憲親先生(建築18回卒、金沢工業大学教授)に話題を提供していただきました。

講演時間は、テーマを2題に絞り込んだことから時間がたっぷりあり、講演内容に対して参加者から広範囲な内容の意見・質問が殺到しました。結果、予定時

間ぎりぎりまで熱心な質疑応答が行われ、司会を担当した小生も纏めに困るくらいの盛会でした。

講演会終了後の懇親会は、一昨年同様に55号館(情報研究棟)の最上階スカイレストランにて開催されました。

開会前に、手塚公敏校友会長から挨拶を賜り、また応援団員による校歌斉唱も行われ、厳粛な雰囲気の中で、本会顧問の渡澤正典先生の乾杯発声により開会となりました。

懇親会では、参加者全員による近況報告があり、次の再会を約束して閉会となりました。



第4回湖南会を開催

湖南会幹事役 電気22回卒 三橋 陽一

平成24年11月24日に第4回湖南会を開催しました。湖南会とは金山橋付近にあった下宿「湖南荘」で同じ釜の飯を食った下宿人の内、連絡の付く範囲のOBで構成され、現在17回卒から25回卒までの20人が在籍中です。残念な事に病気で亡くなった方も1名おられます。今回は当時家族同様にお世話して下さった下宿のおばさんが米寿を迎えることから、お祝をという主旨でしたが「お祝をしてもらおうと良いことばかりでない」と気を使ったのか残念ながら断られてしまいました。お祝は我々の気持ちの中でとし、今回の主旨としては会員のほとんどが還暦を迎え定年退職する者もいることから「還暦と定年退職を祝う会」として、場所は学生時代田園地帯だった安積町に出来た郡山温泉ホテルバーデンでゆっくりと温泉につかりながら開催する事にしました。気候も良く3連休で時間に余裕のある人達は金曜日から宿泊し、翌土曜日はジャンボタクシーで猪苗代・会津・喜多方方面にドライブを楽しみました。夜の宴席には仕事や体調不良などで出席出来ない方もあり9名が参加してくれました。40年前に比べ頭の白くなった人・薄くなった人・全く変わらない人・等々風貌は様々ですが、すぐに当時の雰囲気になり宴会場ではそれぞれの近況報告をし、酒が弱く



なった・薬が手放せない・孫が可愛い・年金が心配など話の内容も学生当時とは違い皆歳を感じていた事と思います。話が尽きず時の経つのも忘れ部屋に戻ってからも学生時代のように夜遅くまで語り合いました。

今回は宴会場にプロジェクターを用意し校友会に頼んで捜して頂いた「北心寮寮歌」を久しぶりに聞き、学生時代を懐かしく思い出しました。翌日は会員が郡山の母親と思っている下宿のおばさんに会い、再会を喜び記念写真を撮り、時間の許す人達で懐かしい母校を散策し、昼郡山駅前再会を約し散会となりました。今回の会の開催には校友会さんに寮歌やパンフレットなど多岐に渡りお世話になりありがとうございました。



『志田下宿お別れ会』

機械27回卒 榊原 俊次

去る10月13日・14日に『志田下宿お別れ会』を開催したことをご報告いたします。

志田下宿は安積永盛駅から南へ2km程もある大学からもっとも遠い下宿のひとつですが、居心地が良かったのでしょう、ほとんどの学生が、入学から卒業までの4年間をこの下宿で過ごしました。下宿のおじさん・おばさんは数年前に相次いで亡くなり、建屋も取り壊しになるのを機に、今回、お別れ会を開催する運びとなりました。下宿生OB100名余りの内、連絡の取れたメンバーで都合の付く昭和43年卒～平成5年卒までの28名の参加がありました。

当日は、ご子息夫妻のご好意で懐かしい下宿での豪華な昼食会を用意して下さり、感謝で一杯でした。午後からは、おじさん・おばさんのお墓参りへ、そして夜の宴会を下宿近くの月光温泉クアハイムで行いまし

た。私が下宿にいた当時小学生だった娘のよしえちゃんも参加して、大いに盛り上がり、閉会した頃には日付が変わっていました。



翌日は、母校を訪ねる会に参加。受付には『志田下宿』という案内が別に設けられており、これには、みんな感激！！昭和の時代に置き忘れてきた古き良き時代の礼儀・規律・義理人情・絆・思いやりなどが一杯詰まった二日間でした。現在、コスト一辺倒で人間関係の薄いせちがらい職場に身を置く自分にとっては本当に癒されました(少し人生観すら変わった気がしました)。

今回の『志田下宿お別れ会』に関わった全ての皆さん、夢の様な二日間本当にありがとうございました。

p.s. 参加者からの要望もあり、今後は「志田下宿同窓会(仮称)」と名前を変えて何年に一度かは集まろうかと考えております。今回、連絡の取れなかった志田下宿OBの方は、下記までご連絡ください。



栃木県に戻ってこられた方、仕事で転勤されてきた方、新卒者の方、お気軽にご連絡ください。

北陸支部活動報告

土木22回卒 北陸支部長 岩名 涼

校友諸兄には、益々ご活躍のことと心よりお喜び申し上げます。

今年度の主な活動は、7月28日に東映ホテルにて「第11回定時総会」を開催しました。

昨年で北陸支部設立以来13年目を迎え、会員数も172名(富山会員2名)と当初の約2倍になり、これも会員の皆の活動の賜物だと感謝申し上げます。特に若い人の入会が目立ち今後の支部活動が期待されています。今回は40名程の出席で本部から、手塚会長、アカシア教育研究会から久保田新潟県支部長の出席を賜り有意義な開催となりました。また懇親会では、父母会高野新潟県支部長他5名の参加で和気藹々としたなか日大校歌斉唱等で大変盛り上がり終了しました。

手塚会長、久保田支部長からは、工学部校友の「絆」の話があり東北で培った校友の「絆」は何より心の支えになると感じました。



また、9月29日には毎年恒例となりました「懇親ゴルフ大会」を笹神五頭ゴルフ倶楽部にて参加者が今回も5組で行い、魚沼から参加の大島会員が優勝し、おおいに懇親を深めました。

その他、年に3回程度の役員会を開催し、校友会正会員の入会者の勧誘の検討、支部活動経費の節減、総会参加者増員の検討等を主な議題とし活動してきました。また、新潟桜門会、アカシア教育研究会総会および校友会本部主催の会合への積極的参加や、富山県校友会とのコミュニケーションをとりながら活動していきたいと思っています。

来年度も北陸支部の校友との連携を中心に、工学部の今後の発展のため邁進していきたいと思っています。

今後ともよろしくお願い申し上げ、活動報告と致し

ます。

東海支部報告

土木29回卒 東海支部理事 山本 拓哉

校友会の皆様方には、日頃から大変にお世話になっております。

私は、昭和56年度土木工学科卒で、現在は生まれ故郷の愛知県新城市(しんしろし)に住んでおります。新城市は、愛知県の東部の人口5万人ほどの地方都市で、市域の8割が豊かな緑に覆われ、桜・紅葉が美しく「三河の嵐山」とも呼ばれる桜淵公園があり、長篠・設楽原の戦いで知られる地でもあります。ぜひ一度お寄りください。



さて、母校へは、卒業以来30年ぶりとなる平成23年12月に伺いました。校門から管理棟への眺めは当時の趣きを残し、記憶がひとつずつ引き出されてきました。突然の訪問でしたが、お世話になった五郎丸先生を探し訪ねましたら、たまたま研究室にお見えになり感激の再会を果たすことができました。研究室も頂いたインスタントコーヒーの味も当時のままでした。

母校がいつも私たち校友を待っていてくれることに幸せを感じます。そのためには我々が新しい校友のために日本大学工学部校友会を盛り立てなければなりません。私も微力ながら東海支部の役員としてこれからも頑張っていきたいと思っています。

東東海支部(静岡アカシア会)活動報告

土木28回卒 東東海支部長 大澤 俊幸

昨年11月9日に平成24年度日本大学工学部校友会東東海支部(静岡アカシア会)総会を中部地区が担当番でクーボール会館にて開催した。学校側から、手塚校友会会長、学部から渡辺土木工学科教授長、また、来賓として藤田工科会会長をはじめ父母会からも高木静岡県支部長含め5人の方が出席していただき約60名

の参加をみた。工学部は福島県郡山市にあり、多くの学部が都心にある中で唯一東北圏にある。今でこそ静岡から2時間30分で行けるが、自分が在校中には一番早くても5時間近くかかった。それゆえに校友との絆は固く、この校友会に多くの先輩、後輩が集うのもわかる気がする。特に先輩たちは県や市また企業で活躍され、現職でも県の部長クラスに名をつらね、市の建築部、土木部にも管理職として多数在籍し、それぞれ活躍している姿は誇りである。また各企業でも、それぞれ立派な役職につかれている方、専門職として自分の道を究めている方、自営で頑張っている方、それぞれが社会の為に貢献し、人の為に体を張っている。それ唯大学から学んだ恩返しを、感謝の気持ちを込めて返している。1月26日にグランシップという場所で県工科会総会が開催され、自分も工学部校友会東東海支部長として、静岡アカシア会を代表する形で出席させていただいた。その時の挨拶で自分がとても大切にしている3つの事を言わせていただいた。1つ目は、前向きに生きる、である。何事もすべては考え方が大事。この世にある幸せも不幸せも考え方次第。2つ目は縁を生かす。自分も高校から大学、大学から企業、企業から教育の現場へ、すべて縁でつながって今がある。日大の先輩に指導していただき、また後輩に助けていただき今がある。3つ目は人とは感謝で付き合う。人は他人と比較するために存在しているのではなく、磨きあう、助け合うために、存在している。そう思うと感謝で人と付き合える。これに尽きる。出てくる言葉はありがたいしかない。

この会の冒頭での挨拶で教育現場では生徒たちに何かが欠けているという話をさせてもらった。それは感謝の気持ちではないか？学校に行っていてやっている、授業を受けてやっている、親への感謝、教師への感謝その気持ちに欠けているのではないか。親が一生懸命働き、朝晩の食事はもちろん、昼はお弁当まで作ってくれるからこそ、学校で学ぶことができるのである。学校に行かせていただいている、そう考えるとその親への感謝の気持ちが学校に行かせてもらっているに変わり、学ばせていただいている、授業を受けさせてもらっている、になってくる、そうすれば自然に一生懸命学ばなくてはという気持ちになるのではないか。感謝こそ、すべてのエネルギーだと自分は思う。感謝で学び、感謝で人と付き合う。

ありがとうございます、東東海支部のつながりの原点である。

四国支部活動報告

建築33回卒 四国支部事務局長 藪内 清二

平成24年度四国支部総会は、平成24年7月14日(土)に、毎月第一木曜日18時30分より開催される定例会「一木会」の会場である居酒屋「はんぶん」で開催しました。

当日は、校友会本部より手塚会長をお迎えして、四国4県から校友32名が出席し、やや狭い会場でしたが、六車四国支部長(土木16回卒)に、校友会通常総会の時に撮影して頂いた母校や郡山市内の写真の掲示をし、出席者全員の近況報告等で盛会の内に、又の再会を誓って会を閉じました。



四国支部では、会員相互の日常活動における“絆”をより太くする目的で、各県単位の組織を構成しています。その活動として、愛媛県校友会が平成24年11月17日(土)に、高知県校友会が平成25年新春、香川県校友会が春、桜が咲いた頃、徳島県校友会も計画中和、各県総会が実施もしくは予定されています。

月例会の「一木会」を含めて、キーワードは“郡山”で、すぐ仲間になれますので、ぜひ気楽にお立ち寄り下さい。

九州支部活動報告

建築29回卒 九州支部長 脇山 亨治

第32回日本大学工学部校友会九州支部総会を平成24年9月22日(金)に、一昨年同様福岡市博多区の「ハイアットリージェンシーホテル」にて開催いたしました。

今年度も35名を超える登録と福岡県下では遠くの大牟田や北九州に加え、隣接する佐賀県・熊本県・大分県・長崎県からも総会、懇親会に駆けつけてもらいました。

総会には三好君(建38)の司会、上村副支部長(建28)上田事務局長(土28)との連携で会が進行し、後藤会計

(機32)の報告に牟田(土22)・山本(土31)両会計監査の報告、私より行事報告と行事計画の承認をいただき、総会は無事に終了いたしました。

引き続き懇親会に入り初めに手塚会長より東日本大震災から1年半経ちますが、その後の東北、福島それに郡山と日大工学部の近況を伝えていただきました。

乾杯の発声でスタートした懇親会も和やかななか進み、各人の自己紹介と近況報告をしていただき、最近恒例の山下さん(建16)の自家農園作ブルーベリー酒もふるまわれ、和気あいの懇親会も終了の時間となりました。吉田先輩(建11・應援團)の指揮の元、校歌斉唱、博多山笠出恒例の「祝いめでた」と「博多手一本」を行い、今回も最年少参加者林加那子さん(電53)による閉会の辞で無事に懇親会も終了し、あとは手塚会長と10名ほどで博多中州での2次会に花が咲きました…。



九州支部では引き続き毎月第三木曜日18:30～福岡市中央区天神の「平和楼てんじん」にて10名ほどで月例の「アカシア会」を開催しています。学生時代の郡山の話や会社での出来事、相談事や専門分野での話など、酒を酌み交わしながら会費3,000円で2時間ほどの懇親会をやっています。郡山出身者であれば九州支部以外の方でもウェルカムですので是非飛び込みでも参加してみてください。11月には柳川で北原白秋の「白秋祭川下り」に参加したりしていますが、支部での懇親旅行や講演会の企画も検討しています。

3.11から2年も過ぎましたが、震災後の復興も進まず原子力発電所を抱える福島県にある郡山市はまだまだ大変な日々が続くと思いますが早期の復興を心よりお祈り申し上げます。また、校友会発展のため九州支部も日本大学校友会正会員入会金の加入推進を行っておりますので支部会員の方の入会も宜しくお願いいたします。

アカシア教育研究会活動報告

建築22回卒 会長 永田 進

震災の影響で平成24年度は工学部の志願者数にも大きな打撃を受け、校友教員の心配も大なるものがありました。そのような時こそ工業高校を中心に多くの人材を輩出してきた伝統と強い絆を発揮しなくてはという母校愛で校友教員の勤務校からは多くの優秀な高校生をアカシアの森に送り出すことが出来ました。そのような中で本年度も新潟支部(本会総会を兼ねる)、青森支部、静岡支部で支部総会が開催されました。さらに山形県では支部結成の準備のため準備会が開催されました。工業教員全国一位の座は譲りましたが、全国工業校長会副理事長という要職に川崎工高校長棟方克夫氏(工化26回)、青森県最古の歴史を誇る弘前工高校長に豊島隆幸氏(電気27回)、山形県の伝統校、寒河江工高校長に菅原和明氏(電気26回)が就任されました。



アカシア教育研究会静岡支部総会・新春の集い
平成25年2月2日



校友レポート



平成23年3月11日、我が郡山は震度6弱!!

(有)サンミックス・システム堀井勝典研究所
建築21回卒 堀井 勝典

私にとってもこのような大きな揺れは初めての体験、鉄骨造2階建の事務所は大きく揺れ、本棚の資料等見事に飛散…事務所のスタッフは、パソコンをおさえ皆呆然、“逃げろ”と大きな声で命令!!階段を降りたら根元が浮き上がり…全員事務所前の公園に避難、揺れが収まり皆安堵の様子。

事務所の安全を確認し我に返り、急に自宅のことが心配になった。築50年の住宅そして高齢の父母、車を飛ばして戻る途中、ブロック塀の倒壊、瓦屋根の落下等散々な光景を目にし自宅に戻る。なんと我が家は無傷!!中に入ると2階に両親が座り込んでいた。

まだ余震が続く中、両親を車に待機させ、再び中に入ると内部は何もなかったかのように平然としていた。本棚の本の飛散も食器類も元のまま。我が家の免震構造に感激!!

それからの数週間は文章に書くこともできない位悲惨な状況でした。

……水、食料、ガソリン、そして放射能……

とにかく大変な日々を過ごしました。

ただひとつだけ書き残したいことがあります。それは大学時代の友人(大分県在住)から数度にわたり、義援品(水、食料、野菜、カップ麺等)が送られてきたことです。

本当に家族全員、涙がとまりませんでした。

さて、私は大学でお世話になってから、40年が過ぎようとしています。20代は大手ゼネコンの設計部、30代では郡山の設計事務所勤務、いろいろな人達のつながりの中で、40歳になり現在の事務所を開設いたしました。構造設計事務所として数多くの作品に協力、特に最近では耐震補強設計を受注するようになり、スタッフ共、日々忙しく仕事をこなしております。

福島県建築士会副会長ならびに郡山支部長という立場にあり、震災直後の応急危険度判定の責任者として市の関係者と協議しながら、会員の協力のもとに、約3400棟の建物調査を実施いたしました。又、構造事務所ということもあり、公共建物(市庁舎、学校、公民館等)、民間建物の被害調査ならびに応急補強の指示等、還暦を過ぎて飛び回って心身共、非常に疲れた日々を過ごしたこともつい最近のように思われます。

まもなく震災後2年になろうとしております。学生時代のなつかしい駅前通り、桜通りなどは、震災により被害を被り、建物の解体が進み、駐車場あるいは小さなショップ等に変り、街並みが大きく変化しつつあります。まだまだ本格的な復興にはほど遠い現状です。

市内各地は除染、除染と業界は忙しく動き回っている現状も追記しなければなりません。

とにかく、我が町郡山はすべてこれからが再出発です!!



(追記)建築士会の全国大会が我が町郡山に決定いたしました。

期日は平成26年10月24日(金)です。

全国の会員の皆様、懐かしい郡山での開催ですので、ぜひ各地より参加していただきたいと思います。2年後の福島県の復興そして再生をぜひ感じていただければ幸いです。

最後に、このようなレポートを書くことができましたことを感謝するとともに、母校の発展をさらに期待してペンを置きます。

ありがとうございました。





重松製作所

機械60回卒 笹本 貴之

私が工学部を卒業してから、早1年が経ちました。私が入社した「重松製作所」は、防じん・防毒マスクを始めとする安全衛生保護具の製造、販売をしている会社です。そこで私は、設計部の量産設計室に配属され、開発設計室が開発した試作品の量産化や、すでに量産されている製品の仕様変更等を、日々の業務として取り組んでいます。

防じん・防毒マスク等の保護具は、最近では福島での原発事故によりTVで紹介されることも多くなりましたが、実際に目や手にしたことがある方は、ごく限られていると思います。ですが、よく見るとホームセンターなどでも売られています。今度立ち寄った際に、探してみてください。

在学中は嫌いだっただesignを、主な仕事とすると決ま

ったとき、戸惑いや不安でいっぱいだった私ですが、一年間、必死で仕事をしていると、自然と身に付いているものでした。ですが、専門知識等はいくらあっても足りないもので、今現在ももちろんですが、毎日が勉強の日々です。振り返ってみると、今までに経験したことがないほど目まぐるしく、気付けばあっという間の一年でした。しかしその甲斐あってか、今ではひとつの大きな仕事を担当しています。

今、私が担当している仕事ですが、わが社の製品を海外に展開するに当たり、国内向けの製品の仕様を変更して、海外に対応させるという仕事を行っています。もちろんまだまだ半人前ですので、失敗も多く、先輩や上司に助けてもらってばかりですが、いよいよ完了も間近というところまで来て、ひとつの安心を感じているところです。

いよいよ2年目がスタートする私ですが、未だ成長段階です。社会人になってみると、学生の頃よりも勉強が大切で、より必要なものだと感じます。今後も努力を惜しまず、知識・経験を積んでいき、今の私がそうであるように、今後入社してくる後輩が頼りとする社員になれるよう頑張っていきたいと思います。

工学部NEWS

●工学部教員定年退職者（平成24年1月～12月）

土木工学科	高橋 迪夫	（平成24年3月31日付）
機械工学科	今村 仙治	（平成24年3月31日付）
	岡 憲治	（平成24年3月31日付）
電気電子工学科	清水 博文	（平成24年3月31日付）
情報工学科	越智 宏	（平成24年3月31日付）
総合教育	菊地 俊美	（平成24年3月31日付）
	佐藤 憲一	（平成24年3月31日付）
	中村 毅	（平成24年3月31日付）

●学生募集

工学部では「一般入試・AO入試・校友子女入試」など様々な入学試験制度を設けております。

身近に大学進学を考えている方がおられましたら是非「日本大学工学部」への進学をご検討下さい。

【入学試験、手続きに関するお問い合わせ先】

TEL 024-956-8619 FAX 024-956-8888

E-MAIL nyushi@ao.ce.nihon-u.ac.jp

●サークル活動主な成績 平成24年度 課外活動成績優秀者一覧

硬式ソフトボール部	第33回北海道・東北地区大学男子ソフトボール選手権大会	3位
射撃部	第65回福島県総合体育大会ライフル射撃競技	10mエアライフル成年男子立射60発 2位 近内 貴志 50mライフル成年女子三姿勢60発 3位 今橋真由子
陸上競技部	第65回福島県総合体育大会陸上競技	男子やり投げ 3位 岩崎 勝彦 男子円盤投げ 4位 榎本一馬・7位 谷津拓弥 男子ハンマー投げ 5位 門馬庸介
射撃部	第39回東北総合体育大会ライフル射撃競技	10mエアライフル男子立射60発 3位 近内貴志
射撃部	第34回東北三県対抗ライフル射撃選手権大会	エアライフル成年男子立射60発 1位 近内貴志
日本拳法部	日本拳法第23回東日本大学選手権大会	一人形の部 優秀選手賞 保科泰良

●三世代表彰の対象者募集

日本大学工学部及び校友会では、10月開催の「母校を訪ねる会」席上において、専門部及び第二工学部、工学部を三世代（祖父母、父母、孫）に渡って卒業した校友をお招きし、表彰しております。昨年は栄えある第1回目の表彰を執り行うことが出来

ました。

今後も引き続きこの制度を残していきます。下記の要領で対象者を募集しますので、該当されると思われる方は、どうぞ奮ってご応募下さい。

記

1. 応募資格 祖父母、父母、孫の三世代に渡り専門部及び第二工学部、工学部を卒業した人（但し、昭和41年4月の学部名改称以前の工学部（現理工学部）の卒業生は含みません。）
○直系にはこだわりません。例：「母方の祖父・父・孫」などでも可。
2. 応募方法「はがき・FAX・ホームページのお問い合わせフォーム」にて受け付けます。
○いずれの方法も必ず「3人の氏名・卒業年・卒業学科・連絡先（住所・電話番号）」を明記して下さい。
書式は指定しません。
3. 応募締切 平成25年7月25日（木）
4. その他 資格対象者には、後日ご案内書を送り致します。

●適性診断テスト(R-CAP)の受験料一部補助

学生の就職支援のために「適性診断テスト(R-CAP)」受験料の一部補助を行いました。

●R-CAP受験のご支援に対する御礼

日本大学工学研究科
情報工学専攻2年
大山 仁



貴日本大学工学部校友会より受験料のご支援をいただき、適性診断・就職適性の分析を行うR-CAP試験を受けさせていただきました。

就職活動のはじめのころは、「情報工学専攻」出身だからと考えて、情報システムの開発に関わる2社を選んで就職活動を行いました。しかしながら会社説明を聞いても何か物足りなさを感じ、試験も不合格となりました。

前に受けたR-CAPの診断結果では、「独創的な発想をする力」があるとの診断結果が出ていたことを思い出し、一般的なSEやシステム開発と異なる分野の企業の採用試験を受けました。実際には、新しい計測器を開発する仕事に取り組むことになる、アンリツ株式会社の採用試験を受けました。会社の説明を伺い、これまで受けた会社とは異なり、「この会社で頑張りたい」との意欲が湧いてきました。面接官との質疑応答も緊張することなく自分のありのままをお話することができました。

今考えるとR-CAPを受けておいて本当によかったと思っています。これからの仕事の間でもR-CAPの診断結果を参照しながら確り仕事に取り組みたいと思います。受験料を支援していただき、R-CAPを受験する後押しをしていただきました貴校友会に心から感謝申し上げます。

●校友会賞

工学部校友会賞に5名選ばれる

平成24年度の卒業記念パーティーにて、手塚会長より校友会賞として表彰状と副賞の記念品が贈られる予定である。

新川 翔太(機4年)・・・体育会第43代委員長

車田 和也(機4年)・・・学術文化サークル連合会第39代委員長

齋藤 康平(情4年)・・・第61回北桜祭実行委員長

穴澤 暢浩(機4年)・・・應援団第57代団長

団体：陸上競技部 代表 田口 龍平(機4年)

・・・郡山市内の幼稚園・保育園の運動会支援や障害者陸上競技会の全盲マラソン選手への伴走支援などの社会貢献活動が顕著

●主な校友会の事業

校友会では多岐にわたり次のような事業・支援をしています。

- (1) 入学記念品贈呈
- (2) 校友会功労者の表彰
- (3) 課外活動への資金援助
- (4) 学部祭への支援
- (5) 卒業記念パーティーおよび卒業記念品への資金援助
- (6) 就職活動への経済的支援
・就職適性検査受験料の一部補助（平成24年度は314名受験）
- (7) 校友の学術研究報告会参加支援
・学術研究報告会発表者への交通費支援
・大学院生への発表支援金

●課外活動・北桜祭への支援

課外活動への支援 体育会、学術文化サークル連合会所属の以下の13団体に課外活動支援金の援助を行いました。

支援団体からの支援金の感想 今後の活動への意気込み

●体育会

- アメリカンフットボール部…今年度は備品などの入れ替えが多く、学生の資金だけでは運営できなかったのでもと助かりました。来年度は一戦必勝を目標とし、一部昇格へ前進したいと思います。チームとしてまだ未熟ですが、これから成長を重ねチームとして更なる躍進を遂げていきます。
- ボクシング部…支援金を頂けたことで登録料や参加費等に充てることができました。大会にも前年度より多く参加できました。来年度も大会で成績を残していきたいです。また人手不足もあるので、部員勧誘にも努めていきたいです。
- 弓道部…本年度は課外活動支援金を扶助していただき、ありがとうございました。おかげさまで様々な大会に出場し、良い成績を残すことができました。しかし、これに慢心することなく、部員一丸となつてがんばっていききたいと思います。
- バスケットボール部…支援金は試合用のリバーシブルを購入するのに使わせていただきました。昨年の後半は成績が奮わなかったのですが、来年度はより良い成績を残せるよう部員一同練習に励みますので変わらぬ応援をよろしくお願いします。
- 空手道部…今回の支援金により備品等を買ひ揃えることができ、大変助かりました。大会で良い成績を残せるように日々の稽古に励みたいと思います。
- サッカー部…部員が少なく部費も集まりやすい環境ではないなか、校友会からの支援のおかげで大会への出場が可能になったり、また遠征費に充てたり出来たので、とても助かりました。ありがとうございます。来年度も、皆日々の練習に励みより強いチームを作ろうと努力しています。
- バドミントン部…支援金のおかげで、練習で多くのシャトルを使って練習をおこなえました。県大会では団体で1位をとれるように、またリーグ戦は1部を維持できるように日々の練習を頑張っておこなっていききたいと思います。
- 水泳部…校友会からいただいた支援金は、水泳部にとってとても大きな力となりました。来年度は東北総体で5位以内、春・冬の五大戦で優勝できるように、日々練習を頑張っていきたいと思っています。

●学術文化サークル連合会

- 演劇部…今回購入させていただいた撮影機器を用いて来年度の新入生の方々に練習風景を紹介したり、自身らの練習、本公演の見直し等をして、活動を助け、部員を増やしていきたいと考えております。
- 管弦楽部…支援金により部の活動を円滑に進めることができました。支援金のほとんどは楽器の維持費に使用し、部員の意欲の向上もはかることができました。しかし新入部員を迎える上で、楽器の数が現状では足りません。今後は楽器購入を見越した支援の程よろしくをお願いします。
- 吹奏楽部…当初は支援金を、買い換えが必要な楽器の購入資金に充てるつもりでしたが、遠征費や楽器の修理、点検が必要となり、楽器の購入は出来ませんでした。しかし、この度ご支援いただき、とても助かりました。今後も部員一同、日々の練習を頑張っていきたいと思っています。
- 囲碁・将棋部…大会への参加費自体が割と高額なので助かりました。2月の大会では是非入賞できるように頑張りたいです。
- 滑空研究会…今後の活動として、フライト訓練の様子や活動内容を映像データとして保存し、自分たちの勉強や勧誘用として役立てていこうと考えています。映像であるため、容量も多く、大容量の記憶媒体の購入費用として、支援金を有意義に使用することができました。

北桜祭メインステージ設置の支援

北桜祭実行委員会からの要望を受け、北桜祭メインステージ設置の支援を行いました。



住所変更について

転居、転職の際は、校友会事務局までご一報下さい。
「電話・FAX・郵便・ホームページのお問い合わせフォーム」にて承っております。

●十桜会からの寄付

平成24年10月14日「母校を訪ねる会」に於いて、土木10回卒「十桜会」の有志の方々よりご寄付を頂きました。お陰様で校友会事務局の応接スペースに、電波式掛時計を設置することができました。ありがとうございました。



●アカシア文庫への寄贈本寄贈者の紹介（敬称略）

- 『建築施工図の基本 描き方、読み方の手引き 建築施工図研究会』…松田 浩成（建築10）
『共同通信社技術史 社団法人共同通信社システム局』…桃井 忠男（電気12）
『郡山哀歌』…田中 康雄（建築13）
『嵐山泊～大蔵官僚の巻～ 亜久米 円二』…近藤 義明（機械15）



※アカシア文庫…工学部校友会では校友の皆様の著作を募集・紹介しております。

日本大学工学部校友会会員通信費寄付者ご芳名（敬称略 平成24年2月1日～平成25年1月31日）

●59回卒	建 築	阿 曾 正 裕	佐々木宣彦	機 械	海 野 勇 人	三 塚 心	吉 田 吏 志	菊 池 竜 介
電気電子 五十嵐崇太郎		安 齋 義 彦	佐藤 慎紀		小 島 眸	電気電子 加 藤 優 一	物質化学 井 場 健 太	関 直 人
●60回卒		飯 塚 晃 大	塩 谷 有 唯		鹿 俣 努	葛 生 一 馬	北 内 伸 一	西 川 貴 秋
土 木 内 川 真		稲 垣 尚 徳	鈴木桂太郎		佐 藤 隆 亮	波 谷 翔 平	北 山 智 也	宮 田 寛
河 田 雄 次		宇 田 怜 史	鈴木 勝 尊		鈴木 克 也	東 海 林 俊 貴	小 林 尚 登	宗 形 龍 馬
河 原 崎 充		内 田 裕 貴	高 田 一 平		鈴木 雅 年	多 田 雅 紀	田 崎 裕 平	小 泉 亮 太
栗 城 雄 平		小 椋 裕 樹	日 隈 宏 法		田 代 佳 祐	鳥 居 隆 彦	中 村 俊 貴	渡 辺 晃 次
中 西 博 紀		川 井 晃	松 金 功 輔		長 谷 川 奨	橋 本 浩	横 山 祥 太	
祓 川 保 之		小 室 加 津 彦	宮 崎 美 奈 子		服 部 良	穂 積 裕 樹	情 報 笠 井 亨	

日本大学工学部校友会各位

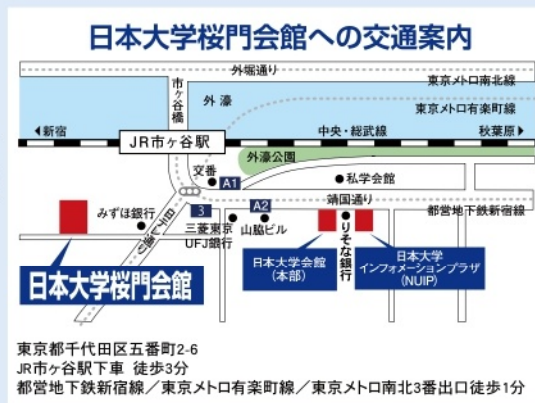
平成25年3月1日
校友会会長 手塚 公敏

平成25年度 通常総会通知

本会会則第13条により、日本大学工学部校友会平成25年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご出席くださいますよう、ご通知申し上げます。

記

1. 日 時／平成25年4月20日（土）14時より
2. 場 所／日本大学桜門会館（市ヶ谷）
3. 議 題／（1）平成24年度会務報告および決算報告
（2）平成25年度事業計画および予算審議
（3）会則改正
（4）会員名簿の発行について
（5）その他
4. 懇親会／総会終了後、大学関係者を迎えて懇親会を開催



第33回 母校を訪ねる会

- 日 時／平成25年10月27日（日）
場 所／日本大学工学部50周年記念館
（ハットNE）を予定
対 象／第11回卒業生（昭和38年3月卒業）
第21回卒業生（昭和48年3月卒業）
第31回卒業生（昭和58年3月卒業）
第41回卒業生（平成5年3月卒業）
第51回卒業生（平成15年3月卒業）

今回は左記の卒業生が母校訪問の主たる対象となりますが、対象年度に関わらず、ご来校ください。大きく発展・成長した母校をご覧いただき、恩師や旧友との再会に懐かしい一時をお過ごしください。この日は第63回北桜祭開催中です。

なお、クラス会を予定されている幹事の方は校友会にご一報頂ければ幸いです。

卒業後50年以上の校友全員も招待対象としていきます。どうぞ御来校下さい。

校友会報 第76号



- 発 行 者 日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原1
郵便番号 963-1165
電話番号 024-944-1327
FAX番号 024-944-1327
E-mail : info@kouyu.ce.nihon-u.ac.jp
URL : http://www.nichidai-ce-koyukai.com
- 発 行 部 数 49,000部
発 行 日 平成25年3月1日
発行責任者 校友会会長 手塚 公敏
編集責任者 編集委員長 長澤 幸二



この印刷物は、環境にやさしい植物油インキとFSC®認証紙を使用しています。紙へリサイクル可。